

会 議 記 録

名 称	中央区基本構想審議会躍動部会（第2回）	
開催年月日	平成28年5月25日（水）18:30～20:40	
場 所	中央区役所本庁舎8階 大会議室	
出 席 者	委員	金井利之（部会長）、中西史（副部会長）、リシヤール コラス、石田英朗、杉原慶一、古屋勝彦、三田芳裕、松岡肇、森山照明、山本泰人、立川智誉、島田勝敏
	幹事	平林治樹（企画部長）、長嶋育夫（区民部長）、高橋和義（教育委員会事務局次長）、濱田徹（企画財政課長）、御郷誠（企画部副参事（都心再生・計画担当））、園田典子（広報課長）
配布資料	中央区基本構想審議会躍動部会（第2回）次第 中央区基本構想審議会「躍動部会」委員・幹事名簿 中央区基本構想審議会躍動部会（第2回）座席表 資料1 区民意識調査のクロス集計結果 資料2 他道府県の方々から見た中央区（インターネットアンケート調査） 資料3 中央区基本構想審議会躍動部会 現況と課題（素案）	
議事の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議題 <ol style="list-style-type: none"> （1）区民意識調査のクロス集計結果について （2）他道府県の方々から見た中央区について （3）中央区基本構想審議会躍動部会 現況と課題について （4）その他 3 閉会 	

1 開会

新委員の紹介

- ・事務局から、京橋地域町会連合会会長の異動に伴う杉原慶一委員の就任及び中央区PTA連合会会長の異動に伴う岩田享也委員の就任を報告

配布資料の確認。

2 議題

(1) 区民意識調査のクロス集計結果について

事務局から、資料1「区民意識調査のクロス集計結果」を説明。

金井部会長 質問や意見があればお願いしたい。

中西副部会長 前回資料「本区を取り巻く社会経済情勢と新たな課題・方向性について」の「中央区 4つの宣言」において、「花の都中央区宣言」がある一方で、資料1の3ページの「生活、余暇を過ごす上で必要、充実して欲しいもの」では、「やすらげる緑や水辺の空間・オープンカフェ」が1位となっている。宣言と実際の満足度に差が生じていることについて、どのような点が難しいか、また、今後の解決策について説明いただきたい。

事務局 中央区は面積が10km²程度で、東京都23区の中でも2番目に小さな区であり、公園面積や緑被率も低い状況であるため、緑や水辺の空間を区民が求めていると考えられる。今後は、築地市場移転後の跡地や晴海の選手村跡地におけるまちづくりの中で緑や水辺の空間を充実させていきたいと考えている。

金井部会長 2ページの「気に入っている点」で「水辺や緑が多く安らげる」の回答率が23%で4番目に挙げられ、同ページ「施策分野に対する満足度」では「公園・緑地・水辺の整備」が51%で2番目、「生活、余暇を過ごす上で必要、充実してほしいもの」では「やすらげる緑や水辺の空間・オープンカフェ」が44.3%で1番目に挙げられている。これはどのように理解すればよいか。

事務局 気に入っており、満足もしているが、これからまちづくりが動き、報道等により築地の跡地に係る水辺の充実への動きを見聞きする中で、さらなる充実へ区民の期待が高まっているものと推測している。

中西副部会長 2ページ「施策分野に対する満足度」で「公園・緑地・水辺の整備」を選択し、かつ3ページ「生活、余暇を過ごす上で必要、充実して欲しいもの」で「やすらげる緑や水辺の空間・オープンカフェ」を選択している、というようなクロス分析を行うと満足しているけれども要求しているのか、回答している集団が異なるのかが分かり、対策の練り方があると思う。

事務局 現在は指摘いただいたクロス分析は行っていない。今後分析を行いたい。

コラス委員 10年程前の審議会では銀座などにオープンカフェを増やしてもらいたいという発言をしたところ、「法的にはなかなかできない」と回答をいただいた。その後の進捗はあるか。

事務局 確認の上お伝えする。

森山委員 区役所前などの地下にある高速道路をふさいで、ここに公園や緑を増やし、人が集まる場所をつくることで、中央通りだけでなく区全体を回遊してもらうことが考えられる。また、高速道路の蓋の上の空間に区役所を建て替えるなど、色々なやり方があると考えている。東京都のやるべきことだとは思いますが、そのような面積の増やし方を考えるのも1つだと思う。

金井部会長 区にはそれらの計画はあるか。

事務局 日本橋上空に架かる首都高を撤去する動きはあり、再開発の中で地下化していき

たいという考えはあるが、そのようなハード面については別の部会で議論している。首都高全面に屋根をかけることは、法的な問題などがあると思われるが、区だけではできるものではなく国や東京都への働きかけも別途行っているところである。

金井部会長 ハード面についても躍動部会の所掌分野と切り離すことができない部分もある。ぜひ検討していただきたい。

山本委員 満足度は高く、同時に要望もみられる「道路や交通環境の整備」、「公園・緑地・水辺の整備」などの分野では、さらなる満足感を与えることができる改善プランに企画力を発揮する必要があると思う。

また、「外国人増加への考え方」については地域によって異なるとのことだが、ここでいう外国人はショッピング目的か、または歴史や文化に対する観光目的か、どちらの外国人を指すか掘り下げた調査があるとよい。

事務局 今回のクロス集計には限界があり、外国人の目的については分析が難しい。

金井部会長 4ページ、「外国人の考え方」でいう外国人は、居住者ではなく、ショッピング客または観光客を意味しているか。

事務局 定住者の方、来街者の方、両方に調査をしている。

三田委員 現在、出生数が2,000人近くに増えているが、学校建て増しなどが間に合うか不安がある。区民意識調査では子どもと子育てに関する設問が少ないが、調査の方向が向いていなかったということか。

事務局 区民意識調査で子ども・子育てに対する調査の方向感がなかったという認識はない。小学校の議題については、資料3において課題と認識のたたき台を示すため、その際に様々な意見をいただきたい。

古屋委員 隅田川の両岸の区が集まる隅田川サミットでは隅田川の発展について話し合っている。中央区は河口を擁しているという有利な条件にもかかわらず、上流の区に比べて意見をあまり出していない。中央区には築地市場の跡地や浜離宮庭園など良い素材があるため、いくらでも良い海洋公園が作れると思う。

国では2020年までに外国人観光客を4,000万人に増やすと言っていることから、今後も必然的に増加すると考えられる。それに対し、上手い所作を考えればよいと思う。

事務局 先ほどのコラス委員からのオープンカフェの質問について回答する。現在は特区申請をすればオープンカフェを開くことができる。ただし、周りの商店との関係等もあることから、拡大は難しい状況である。

コラス委員 銀座では屋上に開かれる例もみられるが、カフェは気楽に足を運べる路面に必要である。

「中央区は狭い」と言うが、地域的に商業施設の偏りがみられる。また、銀座等の商業施設が多すぎると声が上がっている場所でも、最近ではその多くが外国人向けとなっており、住民向けではないことが残念である。

外国人観光客増加の大きな問題の1つとして、バスを停める場所がないことが挙げられるが、これは来年バスの乗降場ができるようだ。また、外国人観光客4,000万人という政府の目標があるが、数ではなく、文化に関心の高い観光客を呼びこんでいくかが重要である。また、「すみだ川」の永井荷風など、中央区には非常に深い文化があったが、薄まってきてしまったことが残念である。そこで中央区では、純粋な日本文化の復旧に力を入れたらよいと考える。

山本委員 屋台村やオープンカフェについては、衛生管理上の規制もあるが、可動性の水源の確保など技術改良により安全性を確保しながら、実現に向けた道すじをつけていく必要がある。

コラス委員 フランスでは、路面マーケット開催に必要な電気や水道などの様々な設備が整備

されている。これらは割高な設備ではない。

(2) 他道府県の方々から見た中央区について

みずほ総合研究所株式会社から、資料2「他道府県の方々から見た中央区（インターネットアンケート調査）」を説明。

金井部会長 質問や意見があればお願いしたい。

中西副部会長 今回のような、住民ではなく、距離が離れた他道府県の方を対象としたイメージ調査は他の区に例があるか。

みずほ総研 今回の調査は、竹内会長からの助言をもとに行っているものであり、他の事例は収集していない。調査の上、傾向がわかれば報告したい。

石田委員 銀座や日本橋は全国的に著名であることから、これまで国内から人を呼び込むための積極的な働きかけを観光協会など地元の団体と行政が一丸となって行ってこなかった。地元団体と行政が一体となったコンセプトを中央区から呼びかけていく必要がある。国の施策の中で外国人が訪れ、マナーの問題など弊害が生じているのは、そのような呼びかけができていないためであると思う。「地下鉄やバスなどの公共交通が整備され、利便性が高い」や、「犯罪が少なく安全である」などの項目で区民意識調査の結果と差が生じているのは外部に知らそうとしていないためではないか。

今後、人が来るまちとして中央区はどういうまちにしていくのか、積極的に基本構想の中で打ち出していきたい。

水辺の空間については、漁港区や、築地市場の跡地、晴海の選手村跡地の開発における規制を緩和するよう積極的に国・都への働きかけていただきたい。

金井部会長 千葉、埼玉、神奈川を対象から外した理由は何か。

事務局 第三者の視点ということで、日頃、通勤、通学で中央区に接している方を除いた。過去に訪れた経験やテレビ等を通じた中央区のイメージを調査するという趣旨である。

金井部会長 大都市の場合には昼間人口、つまり1都3県の人の意向が重要である。昼間人口への配慮がないと、大都市としての責任を果たせないと思う。

回答者は銀座や日本橋が中央区にあることは知っているか。

みずほ総研 はじめに、「Q5. 東京都23区内に、「中央区」という区があることを知っていますか。」というスクリーニングをかけている。また、この設問に「知らない」と回答した内、「Q6. 以下の中から、あなたが知っている地名・観光スポット（名所）をお選びください。」でいずれかの地名・観光スポットを選択した方々も中央区内の場所は認識しているということでアンケートに回答いただいている。

森山委員 アンケート調査結果に年代別の結果がないが、地方でも若い年代と50代では「中央区に訪問したいか」などへの回答の傾向は異なると思われるため年代別の結果がわかるとよい。東京に関心の高い若い年代だけでなく、50、60代の人を中央区に呼び込むPRも必要であると思う。「今後中央区に住んでみたいと思うか」という設問については住みたいが家賃が高く住めないという回答が本音だと思う。

(3) 中央区基本構想審議会躍動部会 現況と課題について

事務局から、資料3「中央区基本構想審議会躍動部会 現況と課題（素案）」を説明。

金井部会長 前回の委員からの意見をもとに、大項目ごとの「現況と課題」について、事務局案が示された。本日は、これをたたき台にして、「現況と課題」や「施策の方向性」に盛り込むべき内容について皆様から意見をいただきたい。

まず1つ目の大項目「多彩な産業が地域に活力を与え、多様な人が集いにぎわうまち」についてお願いしたい。

森山委員

中央区の地場産業に印刷・製本がある。印刷業も減ってきているが、組合に加盟している印刷・製本業者は約200社ある。中央区で開かれるイベントでは、印刷は広告代理店に丸投げされており、広告代理店から印刷業者に厳しい予算で発注が来るので、地元の業者に直接回すような施策をとっていただきたい。また、物品を購入する際も、商店街連合会に依頼することで区内の産業が良くなると思う。

印刷業は小さい会社がほとんどで、厳しい予算で発注されると継続できなくなるため、地場産業の育成や衰退した商店街を盛り上げる施策を考えていただきたい。

再開発では、緑を作って人の流れを変えるなど、思い切った取り組みがあると良いと思う。

松岡委員

中央区商店街連合会には33の商店街が加盟している。銀座や日本橋、月島、晴海、人形町などそれぞれの小売店が集まって、個性を発揮しているのが中央区の商店街である。

インターネットや通販で人を介さずほとんどの商品が揃う現在にあっては、それぞれの店が、どこの区のだこの商店よりも、心からの接客、真心の販売ができて、この店に来て良かったと思わせるような中央区全体の小売店・商店づくりを広めていきたい。これは中央区商店街連合会の方針として実行に移したいと思っている。

中西副部会長

今の松岡委員のお考えは、前回もお聞かせいただいたと思うが、審議会や部会の場でのそれぞれの委員の発言をどこにどのように反映したかがわかる資料はあるか。

事務局

委員の発言を反映したことがわかる詳細な資料は用意していないが、資料3「現況と課題(素案)」は第1回以降の議事録等をすべて関係部局で共有した上で用意している。これは事務局によるたたき台のため、今回いただく委員の意見を反映し、第3回の専門部会で修正版を示したいと考えている。

金井部会長

事務局は委員の発言を「現況と課題」または「施策の方向性」に切り分けて基本的に反映するという方向で配慮していただきたい。

立川委員

「1 多彩な産業が地域に活力を与え、多様な人が集いにぎわうまち」の「(1) 現況と課題」に、「本区では従業員数100人未満の中小企業が全体の96%」とあり、「雇用の確保や勤労者の生活の安定に向けた取り組みも重要です。」とあるが、これは中央区民に対しての取り組みか。

事務局

集団面接会などの区内の中小企業向けの取り組みと、無料相談所や職業訓練などの区民向けの取り組みがある。

立川委員

中央区では働き手が足りていない会社が多くあるという意味もあるか。

事務局

働き手が足りないというより、中小企業が良い人材を雇用するために、単体では参加者が集まりにくい面接会をまとめて集団面接会として行うということである。

立川委員

外資系企業は港区、渋谷区、千代田区に多く、中央区は少ないというイメージがある。仕事のある外国人を入れるためにお金を出して外資系企業を中央区に誘致するなどできれば良いと感じた。

また、「近年の東京への人口集中」、「外国人観光客」について、ドイツから日本への観光客は他の国と比べると少ないようで、ドイツ語による表記がないことが理由とのことである。欧米人は中国人と全く異なる文化を持つためポテンシャルがあると思う。外国人のマナーが心配な場合はマナー広告などで周知することで生活、商業の環境が良くなるのではないかと感じる。

山本委員

同じ人のにぎわいであっても、色々な種類のにぎわいがある。大項目2、3は住民のために快適な環境を整えることを示しており、大項目1は商業の活性化や先端企業の誘致、昼間人口の増加が主題であると考えられる。

歴史的に考えると、中央区は商業で発展したまちであると思う。中央区の特色たる産業を考えると、商業に方向性をもたせることが中央区らしいと思う。熙代勝覧に描かれた頃の江戸には、人口が120万人いたと言われており、商店の裏には長屋があり、人情の行き交うまちが自然にできていた。当時から商業は産業を構成する主要な要素であり今後も商業を主軸に置き、魅力的な人々が集まるまちにしていくことが中央区らしい道であると思う。デジタル化が進み、インターネットやコンビニで必要なものが揃う時代になっていく中で、商業に立脚した独特のまちづくりができれば世界、また日本の他都市にもないまちが実現すると思う。

また、明るいまち、にぎわうまちを目指すといった抽象的な施策だけではなく、それがうまく行っているのかを測るために、具体的な指標を数字で表す必要がある。例えば日本における中央区のGNPのシェアや観光客数などが考えられる。

古屋委員 成熟した都市として人を呼んでくるにあたって、ニューヨークやロンドンなどの大都市を比べると、中央区に不足しているのは劇場や音楽、美術館などの文化の香りではないかと思う。台東区は上野でオリンピックに向けて色々な文化プログラムを行うとしているが、中央区においても同様の取り組みが必要であると思う。

三田委員 「多彩な産業が地域に」とあるように、工業、商業など社会の仕組み、流通形態も変わり、モノを作っても売れない時代になっている。昔の大量生産、大量需要の時代ではなく、これからはモノではなくコトだという話もある。これまでの常識に捉われず、視点を変えて将来を見据えなければ、今後の社会の変化には通用せず、良い基本構想とならない気がする。

生活雑貨は商店街ではなく大型スーパーで買われることがほとんどで、また、まちの工場も確実に減っている。地場産業は非常に厳しい状況である。

石田委員 地場産業の育成や保護に取り組んでいるが、流通の仕組みが変化している中で、果たしてそれでやっていけるか疑問がある。

中央区には大型スーパーは少ないが、タワーマンションが増えている地域では生活を送るうえでは必要性があると思える。今後を見据え、大きな区画で買い物環境を整えるといった考え方も打ち出さないといけない時代が来ていると強く感じる。

金井部会長 2つ目の大項目、「豊かな学びにあふれ健やかな体を育むまち」についてご意見をいただきたい。

島田委員 価値観を変えていくことは学校教育でも大事なことだと思う。「(1)現況と課題」の3行目に「生きる力」とある。子どもたちの生きる力を考える際に、現在の価値観、社会経済状況で判断しているが、今の子どもが社会に出る10年後の世の中の価値観、社会状況から逆算して教育を考えていかななくてはいけないと思う。確実に言えることはグローバル化であり、子どもが将来活躍する際には、色々な外国の文化や価値観を認め合いながら、協働、共生して物事を解決していく時代が来ると考える。

先ほど、三田委員から出生数が増え、学校の増改築が間に合うかという指摘をいただいたが、現状としては平成25年の調査に基づいて6校の小学校の増改築を行っている。今後の人口推計、出生率を考慮して、児童数増に耐えうる計画を基本構想、基本計画の中で、早急に打ち出したいと思っている。また、学校の規模に留意するだけではなく、習熟度別などの質の高い教育を維持しなくてはいけないと思う。

また、次ページに記載のある「家庭教育」について、3つ目の課題にも関わるが、今後は学校を核にした家庭と地域とのコミュニティもこの基本構想の1つの大きな切り口であると考えている。

三田委員 日本、また東京は超成熟社会になっている。一般的に考えると超成熟社会とは人

口が減り、子どもの数が増えない社会であるが、中央区は人口が十数年前と比べると倍に増えており、子どもの数も増えている。超成熟社会の中でも中央区は違ったパターンの方向に進んでいるため、一般的な超成熟社会で適用できるものではなく、新たな中央区のスタイル、ニューモデルを実現する必要がある。

教育については20年前と今で学校のカリキュラムはそれほど変わっていないと思うが、15年後の価値観に合うような学校教育のあり方はまだ磨き切れていない。

山本委員

中央区に限った話ではないが、日本の持つ文化資産が軽視されているように思う。イギリスやフランスでは古典を大事にし、展示館や記念館を通じて子どもたちに伝えられている。今取り組まなければ忘れられてしまうという危機感がある。中央区には永井荷風や松尾芭蕉など文化人が大勢いたこと、また、彼らのものの考え方も伝えていく必要があるのではないかと感じた。

石田委員

現在、地域で収容しきれない子どもを特認校という特色ある学校に通っていただくことで対応をしているが、子どもの出生数がこのまま推移すると今後対応できるか心配である。また、特認校制度をとっているが、区の義務教育としては平準化する必要があり、実験校で理数教育に特化した教育を行い、全体に展開することなども今後考えられる。こうした対応も見据えていかななくてはいけない。

また、地域コミュニティは幼稚園や小学校PTAなどでの子どもや両親のつながりから形成されるが、特認校制度などによって子どもが通う地域が頻繁に移ることでコミュニティが崩壊しないかという不安材料がある。

中西副部長

「② 希望に満ち、次代を担う子どもの育成」について、グローバル化の中で、次世代が世界に入って活躍するために重要なことは、生まれ育った環境である中央区に誇りを持ち、伝統を自信につなげることであると思う。この要素を入れていただきたい。

金井部長

「3 人々のつながりが広がる文化の香りと平和に包まれたまち」について意見をいただきたい。

石田委員

中央区には伝統文化など素晴らしい文化の土壌がある。これらの芸術、文化を継承していくと同時に、先進的な新しい試みが醸成されるような環境を整えることを盛り込んでほしい。

森山委員

私の友人には中央区で育ったが長く住み続けられずに中央区を出て、実家もないという人が多い。新しい住民が増えているが、この方々がずっと中央区に住んでいられるようなまちづくりが大事だと思っている。今後、町会からまちの催しに参加してもらうように呼びかけるなど、区として歓迎の姿勢を示し、新しい住民も含めて長く中央区に住んでいられるようなまちづくりが大事である。

コラス委員

中央区は、人形町や日本橋のような伝統的な面と、銀座の1920年代のモボ・モガ、銀ブラなどの先進的な面がある。この2重の面をどのように文化的に活かすかということが根本的な課題である。

観光客がこれから増える中では世界の観光都市と同じように中央区独自の文化が必要であり、食文化などの伝統的な文化や、元来の銀座の特色である海外の最新文化の発信が考えられる。その中で住民と観光客、双方の関心を考慮することが課題であり、例えば観光客が関心をもつ伝統工芸と、住民向けのアートギャラリーを併設するなど、地域で分けるのではなく、一体でつくるのがこれからのまちづくりでは考えるべきではないかと思う。

山本委員

日本橋には100～300年の古い店が多い。一方で、コレドなど再開発で商業施設が建てられると、海外ブランドを含め50～60の新商店が入る。地域に根差した商店と新しく入ってきた商店、あるいは日本橋以外の地域から入ってきた商店が融合して

1つの共同体となって商店街を作っている現状がある。地域に根差した商店が商売をやめるということにならないよう、常に古いものと新しいものが融合し、共存するという道を外してはいけないと思う。

(4) その他

質疑等なし。

3 閉会

金井部会長の閉会宣言により終了。